

平成 29 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ヤマト アキカズ
氏名 山本 昭和

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 愛知県の学校司書の現状について

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	山本昭和	文化情報学部	教授
研究分担者	福永智子	文化情報学部	教授
研究分担者	竹市由美子	中京大学	非常勤講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

学校司書の雇用条件の詳細については、これまで、どの地域でも明らかにされていない。
そこで、愛知県の学校司書の現状について調査し、以下の 3 点を明らかにすることを目的とする。

- ① 県内学校における学校司書の配置率
- ② 各学校における雇用条件・勤務条件
(正規職員か、専任か、複数校のかけ持ちか、1 日の勤務時間数、給与額、等)
- ③ 学校内における位置づけ
(年間授業計画に策定にかかわるか、職員会議に出席するか、授業に参加するか、等)

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

1. 愛知県の公立小中学校を対象としたアンケート調査を実施した。
調査対象は、愛知県内の小学校 (975 校)、中学校 (443 校)、特別支援学校 (38 校)
2. アンケート調査の内容。
① 専任か ② 名称は学校司書か ③ 勤務時間数 ④ 交通費の支給
⑤ 社会保険の加入状況 ⑥ 契約期間 ⑦ その他
3. アンケート調査の実施
平成 29 年 8 月に調査票を発送し、同年 9 月を回答の締め切りとした。
4. 調査の分析
愛知県の学校司書全体の状況を分析した。
専任は何%か、1 日の勤務時間や給与レベルはどのような分布をしているか、等

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

1. 愛知県の公立の小・中学校の学校司書の現状は、以下のようであることがわかった。
- ①学校司書の配置率は小学校で約60%、中学校で約54%である。
同じ教育事務所管内で配置の有無、同地域内の小・中学校で配置の有無、普通学校と特別支援学校で配置の有無があり、学校間、地域間の格差がある。
 - ②学校司書の70%以上が兼任の勤務形態である。
兼任する学校数は2、3校が多い。勤務時間は1日4、5時間、週2日、年間50日未満が多い。
 - ③身分は臨時・非常勤職員など、すべて非正規雇用で、非正規率が非常に高い。
 - ④委託や派遣の学校司書が数校ある。
 - ⑤採用時の「資格条件あり」は約80%で、「司書」資格が必要とされることが多い。
「司書」または「司書教諭」の資格条件もあることから、図書館や学校図書館に関する専門的知識を持つ人が求められている。一方で資格を問わない自治体もある。
 - ⑥契約期間は、ほとんどが1年以内。多くの自治体で契約の更新は可能だが、更新方法や更新制限などは自治体ごとに異なる。
 - ⑦交通費の支給は、約30%の人が⑦支給されていない。また自治体によって支給基準、支給額が異なる。
 - ⑧学校司書の雇用条件（資格の有無、勤務条件、契約条件、交通費）は、自治体ごとに異なり、条件の格差がある。
2. 学校司書の配置が全国に広がるなかで、配置に対する2つの懸念が指摘されている。①非正規での任用と、②複数校の兼任、の2つである。今回の調査によって、それが愛知県内の実態でもあることが確認された。愛知県内でこの2つの懸念が固定化されないことを強く望む。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①学校図書館	②学校司書	③非正規職員	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

以下の学会誌に報告論文を掲載予定

竹市由美子,福永智子,山本昭和「愛知県内の小・中学校における学校司書の実態：小学校、中学校、特別支援学校へのアンケート調査から」『中部図書館情報学会誌』Vol58,2018.3